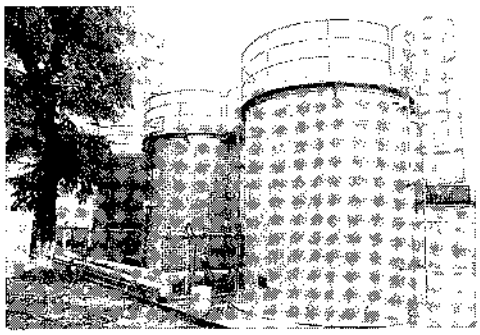
日本水道新聞　毎週月・木曜日発行（週2回）　2016年（平成28年）11月10日

ハノイ水道公社が来日
貝塚市津田浄水場視察

ナガオカ

JICA事業で「ケミレス」納入



7月に完成したトゥンマイ浄水場の「ケミレス」

ベトナム国ハノイ水道公社（略称HAWACOM）の一行4人が来日。10月4日午前、更新工事中の貝塚市津田浄水場（日量1万6000立方㍍）を訪れ、生物処理と接触酸化で地下水を処理する「ケミレス」（商品名）が導入される工事現場を視察した。ナガオカは2016年7月JICA（国際協力機構）の中小企業海外展開支援事業でハノイ市トゥンマイ浄水場に「ケミレス」（日量2500立方㍍）を設置したばかり。ハノイ水道公社は地下水の効果的、経済的処理に高い関心があり、これからの水道整備を考えるため本邦受け入れ事業の中で訪日視察を行ったもの。

ハノイ水道公社一行はバッチ・トウエット・ホン国際協力室長、ゴ・ゴック・アン水質検査室長、ゾン・マイ・フォン技術室長、トゥンマイ浄水場のチャン・ゴック・ホン場長の4人。津田浄水場では2018年春完成予定の「ケミレス」の工事現場を視察。その後、貝塚市上下水道部の武輪潤一上下水道部長、森内成彦浄水課長など幹部、㈱ナガオカの代表らと意見交換を行った。

ハノイ水道公社一行。津田のケミレス建設現場を視察

東南アジアに事業展開へ

ハノイ水道公社のホン場長は稼働中のトゥンマイ浄水場のケミレスについて「鉄、マンガン、アンモニア態チッ素の処理に高い性能を示し、運転の経済性や省力化に貢献している」と運転状況を紹介した。ナガオカはトゥンマイ浄水場の実績をもとにベトナム国内への展開とともに、タイ、ラオス、カンボジアなど近隣諸国の事業展開の足がかりにしたいとしている。

◇　◇

ナガオカのベトナム国との交流は2013年、IWA（国際水協会）を通じてハノイ工大学クエン・アン准教授とワークショップを開き、HAWACOMを交えた三者で水問題の共同取組みに関する覚書きを締結したことがはじまり。

翌14年にはトゥンマイ浄水場で約半年間、ケミレスのパイロット試験を行い、その効果を実証。JICAの「中小企業海外支援展開事業」の開発途上国への普及・実証事業に採択され、トゥンマイ浄水場での実装置導入に結びつけた。

津田の管理棟前で記念スナップ。上段右から2人目が貝塚市の武輪部長、下段右2人目からハノイ水道公社の4人の代表

水インフラ整備で経済発展に協力

ハノイ水道公社はハノイ市民委員会直轄の国営企業で従業員2800名。井戸236本と日量3万立方㍍の河川水を使い、12カ所の浄水場から日量63万立方㍍を供給している。それ以外に中小規模給水施設13カ所を保有、ハノイ市水道の約8割をカバーしているという。ベトナム国では水インフラの整備で経済発展を図っており、最新の水道技術に高い関心を示している。

ケミレスは薬品を使わず接触酸化と微生物で地下水中の鉄、マンガン、アンモニア態チッ素、ヒ素などを超高速で除去する生物処理装置で、トリハロメタン等の副生成物の発生がなく、ランニングコストを大幅に削減できることが特長。

本事業ではトゥンマイ浄水場に導入したケミレスのメンテナンスを含めた維持管理の指導もナガオカが行う。同浄水場ではケミレスの稼働で運転の省力化やPAC使用量を削減。ハノイ水道公社は今後、既存の水道施設の再整備や新設で能力アップと近代化を図っていく計画という。